

2022年度屋久島学ソサエティ第2回理事会 議事録

日時：2022年7月8日（金） 19:00～21:00 オンライン

参加者：湯本貴和会長、手塚賢至副会長、金谷整一理事（総務・会計）、金井賢一理事（編集）、半谷吾郎理事（ウェブサイト）、杉浦秀樹理事（渉外）、小原比呂志理事（企画・大会）、中川正二郎理事（普及・広報）、高嶋敦史理事補（総務・会計）、辻田有紀理事補（編集）、山田容子理事補（ウェブサイト）、藤田志歩理事補（渉外）、会田淳一理事補（企画・大会）、古賀顕司理事補（企画・大会）、中澤 暦理事補（普及・広報）、手塚田津子（事務局）、山口容子（事務局）、村松佳子（事務局）、内田大信（屋久島環境文化財団）

理事会当日は、理事：10名中8名、理事補：10名中7名、事務局：3名中3名、オブザーバー：1名の合計18名が参加し、ソサエティの運営ならびに今年度の大会開催に向けて活発な議論を行った。以下に、各議事内容について整理する。

議事：

1. 理事会メンバーの所属変更等

前回の理事会後（2022年5月開催）、理事会メンバーの所属の変更を確認した結果、1名の理事が該当した。新しい所属先は、小原比呂志理事：一般社団法人屋久島アカデミーであった。

2. 「オンライン屋久島大学」について

小原理事から、昨年度より活動している「オンライン屋久島大学」の設立趣旨や活動内容等について説明があった。また、ソサエティとの連携等についても議論されたが、現時点での連携はないことが確認された。なお、この活動は、（一社）屋久島アカデミーが主催し、小原理事が代表を務め、3名のアカデミーの理事がいることが報告された。

3. 「特定非営利活動法人屋久島いきもの調査隊」との共同事業について

半谷理事から、これまで「ヤクザル調査隊」として30年以上に渡って活動してきたことを、今後も継続していくために新たに「特定非営利活動法人屋久島いきもの調査隊（理事長：好廣眞一 龍谷大学名誉教授）」として法人化したことが報告され、今後は、これまでに得られた研究成果の普及・公表を進めるべくソサエティの賛助会員として共同事業で展開したいとの要望があった。事業の具体的内容は、過去に同隊に参加し、現在は各界で活躍している OBOG らによって定期的に開催してきたサイエンスカフェにソサエティの会員も参加可能にすること、ソサエティが実施してきたエクスカージョンに「調査隊」から講師を派遣すること、大会におけるテーマセッションの企画・開催すること、会誌への投稿すること等を予定しているとのことであった。これらの事業をベースにお互いの会員の交流および相互に入会を推進したい旨の

説明があり、ソサエティとしても、今後、協力することが了承された。その協力体制を推進すべく、同隊が企画するサイエンスカフェに会長が参加し発言する場を設けることとした。

4. 第10回大会の開催について

2022年度に開催予定の大会について、様々な案件について協議した。以下に整理する。

- (1) **開催日**：例年通り、12月上旬にあたる12月3日（土）～4日（日）の週末とすることに決定した。開催時間については、開始時間は例年通りとするが、発表件数多数の場合、終了時間の延長も検討することとした。なお、対面開催の場合は、会場の使用可能時間のことを考慮することとした。
- (2) **開催場所および開催様式**：昨年度の大会と同様に屋久島環境文化村センターをメイン会場とするハイブリッド開催（対面＋オンライン）を基本とするが、今後のコロナの感染状況によっては、完全オンラインでの開催に切り替えることとした。開催様式は、発表の募集を行う10月中旬頃に理事会で判断とすることとなった。
- (3) **開催内容**：テーマセッションは講演者の参加のことを鑑み、昨年度と同様にオンライン配信がメインで実施することとなった。口頭発表およびポスター発表については、コロナの状況にもよるので、実施の有無およびオンラインでの開催の可否、開催した場合の方法について、次回の理事会で検討することを確認した。「高校生発表」についても、例年参加していただいている屋久島高校の意向にも配慮しつつ、協議していくこととなった。
- (4) **テーマセッション**：今年度、取り上げるテーマについて、会員からの要望や理事会メンバーからの提案があり、以下の4件（フルセッション：2件、ミニセッション：2件）を実施することとした。
 - ① フルセッション1：「屋久島学ソサエティ設立10年を振り返る－屋久島の研究者、アクティヴィスト、島民の協働の歴史と未来－」（コーディネーター：湯本会長）。
 - ② フルセッション2：「屋久島におけるウェルネス研究のプレリュード（序章）」（コーディネーター：杉下智彦（屋久島尾之間診療所院長、東京女子医科大学客員教授））。
 - ③ ミニセッション1：「屋久島におけるマツ枯被害対策について－マツ枯0（ゼロ）の世界自然遺産の島を目指して－」（コーディネーター：金谷理事）。
 - ④ ミニセッション2：「ラン科植物研究の最前線」（コーディネーター：手塚副会長）。

なお、講演者の選定および開催日時等は、今後、コーディネーターや担当理事が検討し連絡を取っていくこととした。フルセッション2に関しては、テーマがこれまでにない「森林浴」に関すること、講演予定者が会員外の方であること、理事会メンバー内に専門家がないこと等から、この分野に詳しい研究者に、コメンテーターとして参加してもらうよう打診していくことが確認された。ミニセッション2については、今後決定する開催様式や募集する口頭発表やポスター発表の状況にもよるが、開催時間帯を昼食（休憩）時間（ランチミーティング）や、閉会時間を17時以降にずらす等、柔軟に対応

できるよう検討することとした。前回の理事会で古居理事から提案があった「新事実が徐々に明らかにされつつあるシドッチの屋久島上陸」については、準備の状況から今年度の開催を見送り、来年度に実施したい旨、報告があった。

- (5) **今年度の大会での口頭発表等の申込み締切について**：今年度の大会の発表申し込み締切は10月中旬頃を目途とし、会員に対し早めにメール配信で告知することとした。
- (6) **会誌「屋久島学 No.9」の進捗状況**：大会に合わせて発行している会誌「屋久島学」について、編集状況について説明があった。
- (7) **参加費の徴収について**：昨年度までオンラインでの参加費は無料であったが（寄付は大会後をお願いした）、他学会等の状況やソサエティの会計を鑑み、今年度の大会より参加費の徴収を行うこととした。参加費は1,000円とし、徴収対象は島外の非会員のみとすることとした。オンラインでの参加登録の際に、現住所を記入してもらうとともに、参加費を納入（決済）してもらうこととした。近年の大会参加申請の様々な変更に伴い、事務局側での対応の複雑化を避けることを目的に、適切なシステム構築を進める、事務局および関係理事間でその手法を検討していくことが確認された。昨年度の大会で、オンライン配信の際、参加者に聞き取りづらい発表があったことから、今年度は音声トラブルを極力抑制するために尽力するとともに、トラブルが生じた際には、後日、講演の録画面像で視聴してもらえるよう代替処置を準備することとした。

5. 事務局からのお知らせ

- (1) **助成金の申請結果について**：会計状況の健全化に向け、「屋久島ソサエティ大会開催時におけるテーマセッション等と会誌『屋久島学』の充実化」を図るため、2022年4月下旬に屋久島環境文化財団（以下、財団）による「屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業（申請期間：3ヶ年（2022～2024年度）、申請金額：10万円/年）」で申請を行っていたが、不採択であった。不採択の要因として、申請案件が事業内容と合わなかった旨、説明があり今後の対応として、別の形の助成事業への応募や「屋久島研究講座」へソサエティからの講師派遣（2回分）という形での謝金受領等、あるいは他の民間企業等による活動助成への申請について議論した。
- (2) **共催依頼の取扱いについて**：2022年7月5日付で財団から『令和4年度「屋久島研究講座」事業』への共催依頼があったことを報告するとともに、これまで財団は、例年ソサエティ大会で共催して、テーマセッションを「屋久島研究講座」の題目とし、会場や機器類の使用等で便宜を図ってもらっていた経緯が説明された。しかしながら、過去の大会におけるテーマセッションを利用した「屋久島研究講座」においては、「屋久島学ソサエティ」との共催、あるいは「屋久島学ソサエティ」が企画立案・実施した旨等についての記載が一切なかったことが指摘され、今回依頼された共催および今後の対応については、検討していくこととなった。

6. その他

次回の理事会は、8月下旬から9月上旬に開催するよう調整することとなった。

(文責：金谷理事・高嶋理事補（総務・会計担当))